

共通実践

教材等の共有
デジタルポートフォリオ
キュビナ活用
授業を見合う会 DX



中仙教DX 研究部がつながる

- ・ 授業を見合う会をリモートで繋ぐ
- ・ 指導案を共有してみんなで活用する
- ・ 地域の全職員のTeamを作成しました

数学科がタッグを組んで Qubena活用に取り組む

家庭学習での課題配布に留まらず、授業内でQubena（キュビナ）を活用したり、基礎テスト※をQubenaで行うなど、積極的にAIドリルを活用しました。CBT化※に向けた取り組みでもあります。

※基礎テスト

朝の15分程度の時間で行う基礎的な学習内容を確認するテスト（国・数・英）

※CBT化

「Computer Based Testing(コンピュータ ベースド テスティング)」の略称で、コンピュータを使った試験方式のこと。

数学科の教育専門監
を中心にして授業等で
ICT活用に取り組みま
した。



中仙教（地域の研究団体）を

DX

- 授業研究会（授業を見合う会）をリモート
- 指導案等をクラウド管理
- リモートの合同研修会

研究会 ・ 研修会



中仙教（地域の研究団体）をDX

授業を見合う会は、これまで対面にして小中合同で実施してきましたが、なかなか時間調整が難しく、見に行きたくも見に行けないという声が多くありました。そこで、中仙教DXとして授業をリモートで配信、指導案等もクラウドに保存し、いつでも誰でもどこでも見られるようにしました。全てがリモートになる訳ではなく、対面での授業研究は多くの気づきがあるので平行して続けていく予定です。若手教員のためにも、指導案や教材などをクラウドにアップし、同じ地区の同じ学年の子どもたちがどのような学びをしているのか見える化することで授業力アップにもつなげていけるのではないかと考えています。

後先 宏祐先生_R5豊成小 07/14 16:29

7/18 社会科研究授業【豊成小】

配信予定 9:20~配信予定

渡邊 朋哉 校長先生_R5中仙中 佐々木 吉彦 教頭先生_R5中仙中 田中 真二郎 先生_R5中仙中 杉山 真澄 先生_R5中仙中 西村 典子 校長先生_R5清水小 藤井 優治 先生_R5清水小 桜庭 綾子 先生_R5清水小

津谷 朋美 先生_R5豊成小 07/14 16:38
指導案、会話が5分で済みます。お楽しみください。

- 表紙・日程 - コピー.pdf
- 0718 社会科指導案 (3年) .pdf
- 0718 社会科指導案 (5年) .pdf

3

参観カード	2023年10月16日
指導案関係	2023年7月13日
0718 社会科指導案 (3年) .pdf	2023年7月14日
0718 社会科指導案 (5年) .pdf	2023年7月14日
6年外国語指導案 (Unit 6) .pdf	2023年11月20日
清水小学校総合的な学習の時間協議記録.d...	2023年9月5日
表紙・日程 - コピー.pdf	2023年7月14日



中仙教（地域の研究団体）をDX

個に応じた学びネタ②

小中学校の学習内容をICT×ドリルで楽しく学ぶ！ 夏休み（7月24日）

R5豊成小学校

Qubenaとは違う形で、勉強に取り組んでみては？！児童生徒の自学に役立つサイトです！

©新・ネットの学習教室【無料】(nll.red)

詳細表示

新・ネットの学習教室【無料】
中学生や小学生がネットで自学自習できる勉強・学習アプリです。
nll.red

👍 5

すべて折りたたむ

三浦 誠 専門監_R5中仙中 火曜日 15:52
旧学習指導要領対応なのが嬉しいです、十分有用なサイトですね。

後藤 宏佑 先生_R5豊成小 昨日 9:52
指導要領の対応は、きちんと確認せず共有してしまいました。たしかに、今後はそういう観点も重要ですね。ありがとうございます！

返信

後先 後藤 宏佑 先生_R5豊成小 昨日 16:01

音読×ICT

Microsoft Teamsで音読採点！ 夏休み（7月26日）

Teamsの【課題】機能を使うと、音読の採点ができます。どの言葉で詰まったのか？どんなミス（読み間違い、読み飛ばし、つっかかり・・・）をしがちなのかが分かります。AIが音声・動画を採点し、評価してくれます。
東京学芸大学附属小金井小学校では、国語の音読課題として使用したり、ディスレクシアの児童用の練習として使用したりしていました。外国語の発音練習としても使用できると思います。特別支援教育としてもどうぞ！

詳細表示

試行: 2 レベル: 8 単語: 207

95
1分で単語を修正する

83%
正確率

1 挿入
2 削除
3 自己修正
録り直し

地球の地形に関する研究を自然地理学と呼びます。地形には、山と谷があります。また、氷河、湖、川もあります。地形は、物理的特徴とも呼ばれます。学生が地球の自然地理学を知ることは重要です。

季節や大気、地球のその自然作用すべては、人が

地理的な場所は、いずれかの組み合わせを使用して、どこに住むかを決定します。

録音した単語

- 大気 ☆
- 地形 ☆☆☆
- 氷河 ☆☆☆
- 組み合わせ ☆☆☆
- 物理的 ☆☆☆

Teams音読課題を初心者を使ってみた - YouTube
Microsoft Teamsの音読課題のやり方紹介です。Teamsのチーム（Class）内になる「課題」から取り組みます。#Microsoft #Teams #ICT #GIGA #音読 #課題 #授業
www.youtube.com

👍 3

リモートによる担当者会議の開催

3小学校と1中学校のDX担当者が各校の実践などを話し合う担当者会議をリモートで行いました。

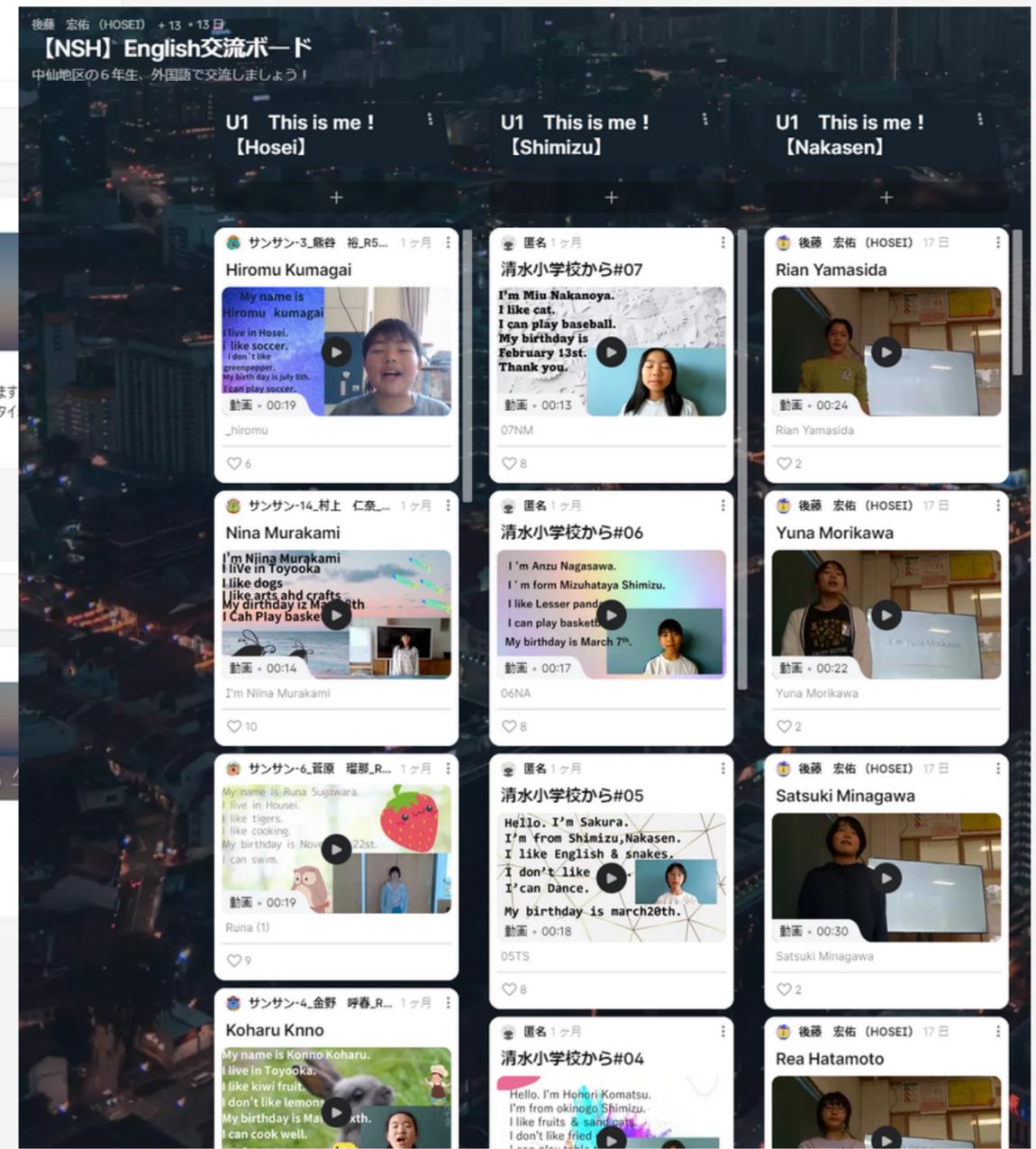
「みんなでやってみる！」を合い言葉に、「こんなアプリあるよ！」「こんな実践もあるよ！」「夏休み、みんなで取り組める課題をつくらうか？」などと、月に2回ほどのペースで開催しました。

本事業の進め方やアプリ等の情報提供の他、共通で実践する取組など、気軽に話し合う形で行いました。

気軽に集まって話ができるということも非常に大切なことだと感じました。

地区の3小学校・学年部会をつくる

小学校協力校との実践

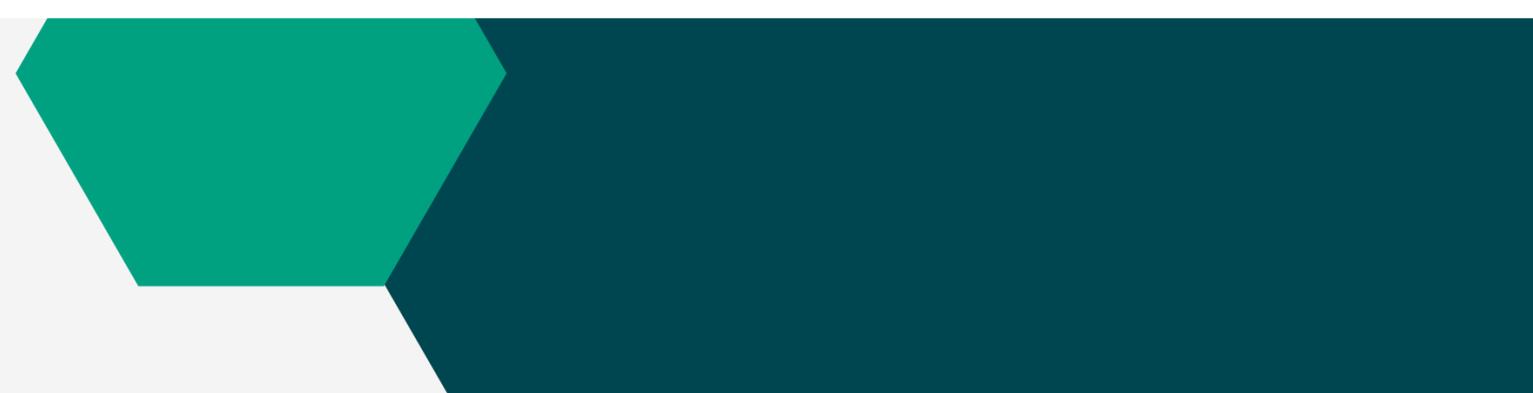


3小学校では、6年生の学年部会をつくり、教材研究を進めました。外国語活動では、3校の児童の発表動画を交流しながら学習を進めていました。

こうしたつながりが理想形でもあります。各学年部で教材をシェアし、職員の働き方改革につなげたり、若手育成にもつながるものと思います。

最終的に一つの中学校に進学してこることも考え、このような交流をしておくことは中1ギャップの解消にもつながると考えています。

中仙教（地域の研究団体）をDX



中仙 LDX研修 2023 

菅原弘一 アドバイザー

をお招きして・・・

講演会 & 研修会

7月27日（木）13:30~15:00
場所：中仙中学校 3 F/PCルーム

各校のLDX担当、研究主任など
3名程度の先生方、おいでください。

研修の流れ
菅原アドバイザーより、中仙地域の職員
に向けて学校DXに関するお話をいた
だきます。その後は、ICTを活用した「振
り返り」について、みんなで研修をして
いきたいと思えます。

☆持ち物☆
・各教科で使っている振り返りシート
・タブレット

面談等も入っている先生がいますので、全て対面ではなく、ハイ
ブリッドで対応します。小学校からは参加できる方に来ていただ
き、あとは小学校のほうでリモート参加、録画してオンデマンド
対応もします。

この件の担当：中仙中学校 田中真二郎 0187-56-2328 



宮城教育大学 大学院教育学研究科
専門職学位課程 高度教職実践専攻
(教職大学院) 特任教授



研修会をDX part.1

LDXアドバイザーの菅原弘一先生（宮教大特任教授）をお招きして、地域全体での研修を行いました。参集して参加する方と、リモートで参加する方、ハイブリッド型で研修を行いました。

今後もこのような研修会や講演会などは地域全体のチームで共有し、職員がいつでも見られるようにしていくつもりです。

また、生徒向けの講演会等も小中の子どもたちのチームで録画し、保護者が子どものタブレットで見られるように対応していこうと考えています。

中仙教（地域の研究団体）をDX

研修会をDX part.1

対面とリモートのハイブリッド



クラウド上での意見の練り合い

学校DX戦略アドバイザーの先生を招いて行った研修会の様子です。対面とリモートのハイブリッド型の研修で、クラウド上で意見の出し合いや練り合いも試みました。

本地区の教職員が一堂に会して研修をするのは初めてでしたが、このようにハイブリッドにすることで開催しやすくなったと思います。また、研修の過程や書き出した内容もデータとして残り、振り返ることもできます。地方にある学校間連携のモデルとしても期待できるのではないのでしょうか。

中仙教（地域の研究団体）をDX



中仙地域

リーディングDXスクール 研修会 & 講演会

今年度、中仙地域（豊成小・中仙中学校）がリーディングDXスクール事業の指定を受け、日々の学校生活（校務・授業・学校間連携等）の中でICTを活用し授業改善や校務の負担削減について研究を行ってきました。今回は、これまでの取組を紹介し、どの学校でも活用できる実践やヒントを多くの先生方と共有したいと考えています。
また、この度、東京学芸大学附属小金井小学校のお二人の先生をお招きし、DXスクールの最前線の実践を紹介していただく機会をいただきました。ICTに興味のある方はもちろん、今後の学校教育やインクルーシブ教育などに興味のある方は是非ご参加ください。

演 題 **ICTを活用したインクルーシブ教育の実現**



鈴木 秀樹 先生

東京学芸大附属小金井小 教諭
ICTを活用したインクルーシブ教育の実現が主要研究テーマ。生成AIを授業で活用する研究にも取り組んでいる。【著書】ICT×インクルーシブ教育 誰一人取り残さない学びへの挑戦



佐藤 牧子 先生

東京学芸大附属小金井小 養護教諭
校内ではICTを活用したインクルーシブ教育に取り組む。学校外ではマイクロソフト認定教育インベーター、大日本図書教科書編集委員などとして活動。

リモート参加・オンデマンド希望の先生方へ
リモート・オンデマンドの方も申し込みをお願いします。

Teams内にある「教育研究所」チームのRoom 03
で配信予定です。参加できない方でもRoom 03で
録画された講演を是非お聴きください。

主催：豊成小学校、中仙中学校
お問い合わせ：中仙中学校 LDX担当 田中真二郎 0187-56-2328

2024
1月12日(金)

中仙市民会館
ドラブル ホール

◆タイムスケジュール◆

9:10	受付
9:30	開会
9:35~	実践発表 豊成小/中仙中 これまでの取組について
10:20~	講演
11:50~	質疑応答
12:00	閉会



※参加できない教員のために、
オンデマンド視聴の準備を実施予定

QRコードからお申し込みください。

研修会をDX part.2

夏に視察で伺った東京学芸大学附属小金井小学校の鈴木秀樹教諭、佐藤牧子養護教諭をお招きして講演会&研修会を行いました。本地区の研修でしたが、規模を拡大し大仙市内の学校全体に告知し開催しました。

大仙市教育委員会教育研究所のTeamからライブ配信とオンデマンド視聴を行いました。市内の学校が繋がっているからこそできる研修会となりました。

他教科の研修会や講演会等もオンデマンド視聴できるものは積極的にこのTeamを活用できると有益だと感じました。（著作権や肖像権等の課題をクリアする必要あり）

中仙教（地域の研究団体）をDX

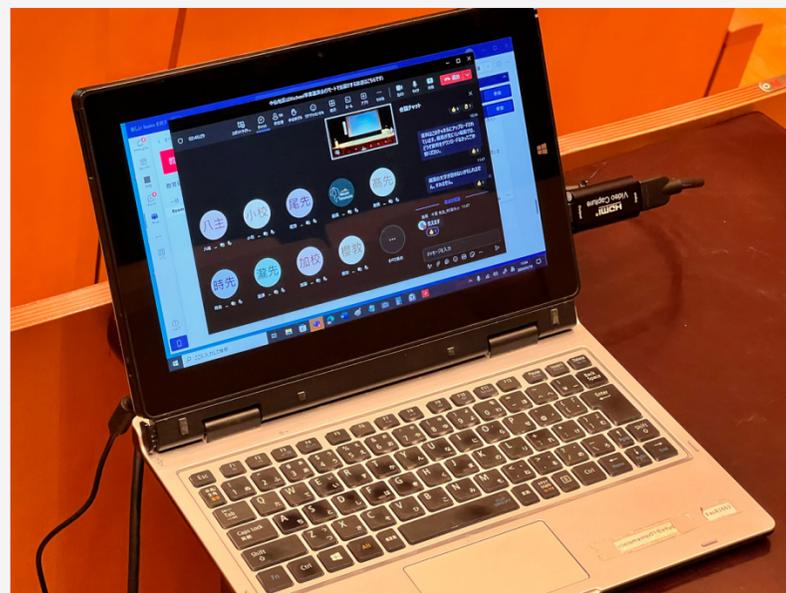
研修会をDX part.2



インクルーシブの視点とAIについて

講演の内容は、「ICTを活用してインクルーシブ教育の充実について」と題して、子どもを主語にした授業作りを考えていくと自然とICTを使っていくことになるというもの。困難を抱える子どもにどのように支援していくべきか、すべて一律に指導するのではなく、子ども一人一人に寄り添った指導をする（side by side）考え方とICTは非常に親和性が高く、今後の授業の在り方を考える上で大変参考になりました。

また、生成系AIの活用については、文部科学省から暫定的なガイドラインは出ていますが、まずは大人がどのように使っていくかを子どもに見せることが大切だというお話をいただきました。



中仙教（地域の研究団体）を

DX

- 各教科でのICT活用例
- 振り返りでの活用例
- 個別最適な学習について

教科・授業



美術科

田中真二郎先生の場合

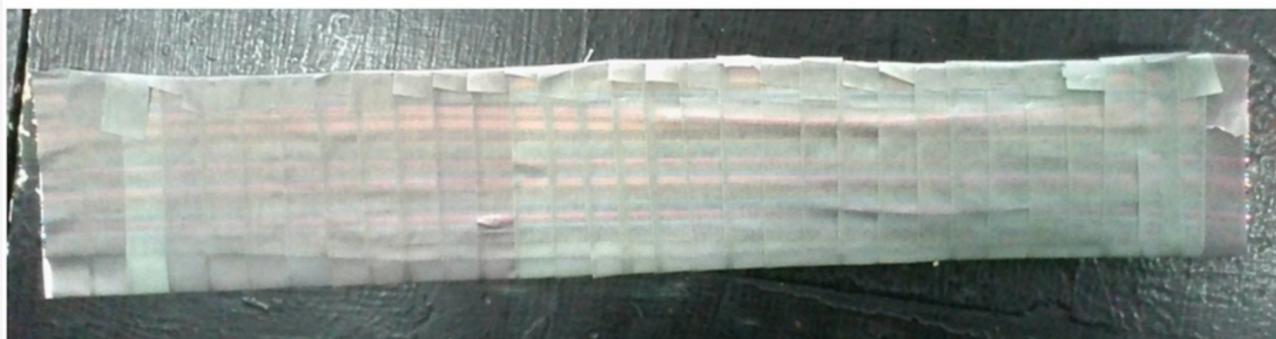


Powerpoint

写真・動画を用いた振り返り「デジタルポートフォリオ」

5 時間目

【「緊張」のイメージを自分にあった方法で表して考えてみよう】



① やってみたこと (学びに向かう力・意欲)

たくさんの糸を使って、いつもの感情を表し、上から黒と灰色のマスキングテープを使って、緊張しているときの感情を表した。わざときれいにはらなかった。糸をぴんとのばして神経が張りつめている感じを表したかった。

② 発見したこと (知識・技能)

マスキングテープを上からはると、糸の色がすけて見えて、いつもの感情が見え隠れしている感じがした気がする。

③ 次の挑戦

今まで、やったことのないことをやる。

④ その他 (メモ・疑問・用意するもの)

結果として残る作品も大切ですが、学びの過程はもっと大切なので、1時間ごとにPowerpointでまとめ、自分で学習の計画も立てさせました。最終的には、8時間分の自身の振り返りをまとめ、2分程度でプレゼンしました。

デジタル版のポートフォリオとして、評価する際にも役立ちますし、子ども自身が学びを俯瞰して振り返ることができます。

☆授業中、写真(動画)を撮影して制作の様子を記録しましょう。
☆振り返りを記入するときに、撮影した写真を一枚貼り付けます。



NKASEN-HOSEI LDXSchool 2023-2024

中仙地域LDX School 取組について



中仙地域LDXS

- はじめに
- 中仙中の現状
- 取組の概要
- 研究会をDX
- 教科等のDX
- 校務のDX
- 委員会をDX
- アドバイザーからの助言など

“リーディングDXスクール事業”



GIGA端末を活用する全国の学校が実践できる事例を創出するために、小中高等学校約200校を指定し、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用した効果的な教育実践を創出・モデル化し、地域や校種を超えて全国展開することで、全国すべての学校でICTの「普段使い」による教育活動を更に推進していこうとする事業のこと。

**GIGAタブレットが渡されてから2年目の頃。
それぞれの学校でどう使っているのか、
学校間に格差があることすら知りませんでした。**



0 何から始めればいいのか？

GIGAタブレットが渡されてから3年目。
それぞれの学校でどう使っているのか、それこそ、学校間に格差があることすら知りませんでした。

アンテナ感度の高い教員が噂を聞きつけ、電話で聞いてくる。
養護教諭伝いに健康チェックのやり方を知り、うちもできないかと聞いてくる。市の学校は全てTeamsで繋がっているとは言え、こうした状況でした。

本校の状況は、昨年までは、タブレットは保管庫にあり、ほとんど活用されていないといった感じでした。
翌年から、朝の健康チェックをタブレット入力に切り替え、朝から必ずタブレットに触れる状況を強制的につくりました。

「ICTの活用を目的化しない」という話をよく耳にしますが、
まずは、「**使うことを目的**」にしないとその先に到達できないという実感です。



0 何から始めればいいのか？

まずは使ってみよう！授業でもどんどん活用してみよう！
と使っていた矢先、このリーディングDXの指定を受けることになりました。

自分達の学校での活用がでいっばいいいっばいでしたが、
この地域全体で活用するという「新たな視点」をいただいたのです。

そこで、指定校になっている豊成小学校ではどんな感じで使っているのか？と聞いたところ、すっごく使いこなしている先生がいるではないですか！
しかし、その先生に聞くと、やはり小学校では「担任」の裁量で格差があるとのことでした。

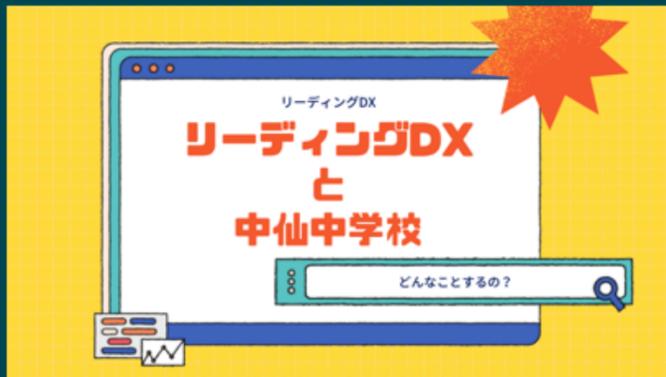
中仙中と豊成小が指定校となり、協力校である中仙小、清水小と一緒にDX化を推進していくことになりました。



0 何から始めればいいのか？

そもそも、「リーディングDXとは何ぞや？」という疑問を解決すべく、4月最初の職員会議で説明することになりました。

資料を作ってくれたのは、豊成小の後藤先生。以前から授業でも使っているという「Canva」を使用して非常に分かりやすい資料を作成してくれたのです。



https://www.canva.com/design/DAGaBumvo04/R6U17SBnmUBeBplm8dJA/view?utm_content=DAGaBumvo0&utm_campaign=designshare&utm_medium=link&utm_source=publishsharelink

この資料を共有してもらい、中仙中学校でも職員に説明しました。説明すると、みんなわかってくれたものだと思ってしまいます。が、実情は、わかっているけど、何をすればいいのか？という感じです。

特にこうしましょう！という働きかけもないままに1ヶ月・・・と時が過ぎていきました。



中仙地域LDXS

中仙地域の学び方・働き方をDXし、効率よく、
楽しく繋がり、教育効果を倍増させよう！

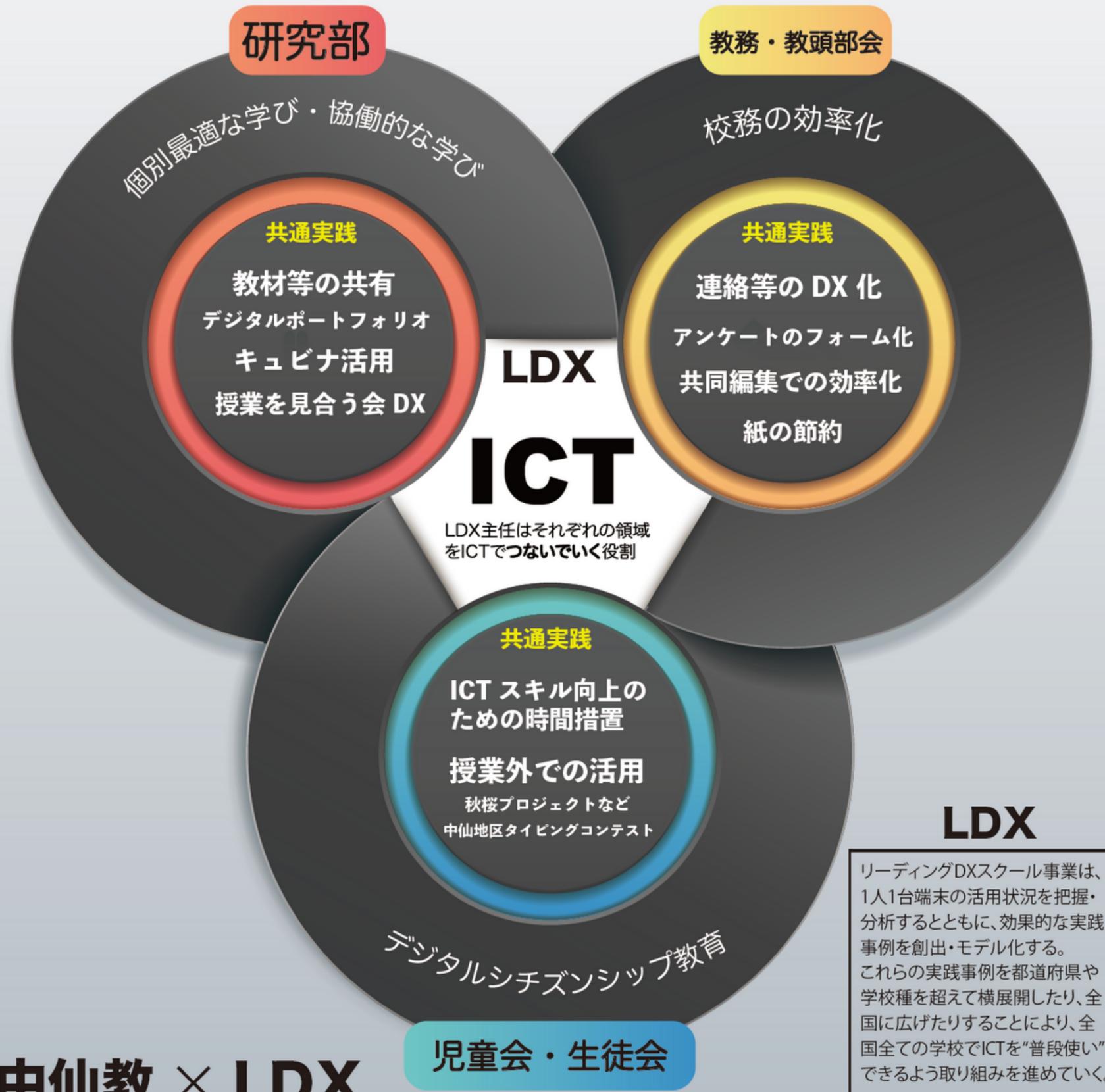
やるべきことを3つに整理し、それらをICTで繋いでいくというイメージを進めることにしました。

**まずは、できることから
できたことを共有
みんなでやってみる**

これまで「中仙教」という組織を作り、3つの小学校1つの中学校とを繋ぎ、共通実践を設けたり、授業を見合う会を随時開催し、授業力向上に取り組んできました。こうした重要な教育リソースをDXすることで、より密度の濃い、スピード感がありシームレスな連携・研究ができるのではないかと考えたのです。



中仙地域の学び方・働き方をDX化し、効率よく、楽しく繋がり、教育効果を倍増させよう！



1

まず初めに取り組んだのが、3つの小学校と1つの中学校を一つのチームにまとめるということです。

「中仙教」という組織として意識的に一つになっていたものを物理的に一つのチームに組み込むことでより俊敏な、業務を共有するプラットフォームにすることができました。

主に授業改善に関わることは研究部チーム、校務の改善については、教務、教頭チームで、デジタルシチズンシップ教育に関するものは児童会、生徒会チームと大きく3つに分けて実践を重ねていきました。

今後もっと繋がるために

- 各校のそれぞれの取り組みの見える化
- 題材や単元などの教材を共有
- 子供たち同士の関わりや成果物の披露
- 各種講演などの録画、保護者との共有